

ざしきわらし

〒028-6193
岩手県二戸市堀野字大川原毛 38 番地 2
TEL 0195(23)2191
FAX 0195(23)2834
URL <http://www.ninohe-hp.net/>

編集発行
岩手県立二戸病院地域連携支援委員会広報担当



「地域医療について考える」

副院長 鈴木彰

最近、医師不足という事をよく耳にするとおられますが、このことは今に始まった事ではありません。県立病院が出来て以来ずっと医師数が不足していて充足された事は無く、県立病院では慢性の医師不足であり、現場では常に問題になってきた事であり、不足するところを院内のほかの科や他の病院からの応援などで何とかやりくりし、患者さんには不自由させないようにと現場では頑張ってきましたが、さまざまな要因が重なり、もうどうにもカバーできないような状態となり表に出てきました。

50年以上にわたりさまざまな事をしてでも確保できなかったものを、今表面に出たからといって確保できるものではありません。今回の医師不足は制度の根本的な部分でひずみがあるため、現場でどうこう出来るものではありませんが、ならばこのまま何もしないのか、どうにかする方法は無いのかと現場において知恵を絞るところではあります。

今年になり地域医療懇談会なるものが相次いで開催されていますが、本当の意味で現場の状況が住民に伝わっておらず、経営がどうだ、ベッドを残せ等自分の立場の主張ばかりで、本当に必要な現場が

こう大変だからこうしたら、ああしたらというような議論にならないため現場の状態は置き去りにされ、何の解決にもなっていません。

先日宮古で、宮古病院と宮古市と県立病院医師連合会という組織とで企画した住民と医師との直接の懇談会がありました。現場の医師の実際の勤務状況や病院での医師の充足状況やそれに伴い発生する問題や病院の取り組み、他県、さらには国際的な比較などさまざまな角度から状況を説明していったところ、住民の方々から「じゃ、我々はどうしたらいいのか、何かすることは無いか」という言葉が出ました。その会には釜石から「釜石病院サポーター」と呼ばれる方にも出席していただき、具体的にどんな活動をしているか語っていただきましたが大きなヒントになったと思われまます。

地域医療を考える。前は医師が、病院が考えて何とかになりました。今は病院だけ、行政だけではだめです。さらに住民の方々も一緒に考え行動する事が必要になってきています。「地域医療はみんなで共に考える」です。